

策定年度	平成16年度
変更年度	平成19年度

江南市水田農業ビジョン

平成19年4月

江南市水田農業推進会議

1 江南市の水田農業のあるべき姿

(1) 江南市の水田農業の現状

本市は愛知県の北西部に位置し、市域の北端に木曾川が東西に流れ、濃尾平野の平坦な地帯です。全耕地面積（平成13年）825haで水田105ha（12.7%）、畑714ha（86.6%）、樹園地6ha（0.7%）となっており主に畑作中心の農業経営が特徴となっています。

露地野菜が盛んで、春だいこん、秋冬はくさい、秋冬ねぎは国の指定産地となっています。

農家戸数（平成12年農林業センサス）は738戸で、専業農家55戸（7.4%）と希少となり、兼業化が進み農家戸数は年々減少しています。

本市の水田農業は、自家用消費米の作付けが中心で、販売用米は少量の出荷にとどまり今後も減少傾向に推移すると予想されます。

担い手の育成は、農業委員会、農協、受託部会等が中心となって利用権設定による農地の流動化を促進してきました。

(2) 作物振興及び水田利用の将来方向

水田における土地利用型農業を活性化させるため、実需者のニーズに合わせながら産地体制を形成する。

現在の不作付け水田には、キカラシ、アンジェリアなどの地力増進効果のある景観形成作物の作付けを奨励し、地力の向上と生産基盤の維持を図る。

(3) 担い手の明確化と育成の将来方向

主力となる担い手には、引き続き農業経営基盤強化促進事業による利用権設定等を推進して農地集積を進める。

2 目標の設定

(1) 作物の作付け目標

作付け計画

（単位：ha）

作物名	品種名	現在の状況	平成19年度の目標	平成20年度の目標	平成22年度の目標
水 稲	あいちのかおり	50.0	50.0	50.0	50.0
	あさひの夢	5.0	4.5	4.0	4.0
	日 本 晴	0	0	0	0
	計	55.0	54.5	54.0	54.0
景観形成作物	キカラシ	8.0	8.0	8.0	8.0
	アンジェリア	0	0	0	0.5
	計	8.0	8.0	8.0	8.5

(2) 販売計画

(単位：t)

作物名	品種名	現在の状況	平成19年度の目標	平成20年度の目標	平成22年度の目標
水稻	あいちのかおり	1.5	1.5	1.5	1.5
	あさひの夢	0	0	0	0
	日本晴	0	0	0	0
	計	1.5	1.5	1.5	1.5

(3) 担い手の明確化とその目標

《リストは省略》

江南市において、担い手といわれる人は露地野菜、施設野菜、花き、畜産と多岐にわたっておりますが、水田農業に携わる担い手はほとんどいない状況であります。

今後は、広く担い手を掘り起こし土地利用の集積や作付け、さらには団地化を図る経営体を目標としたい。また、水田において地力増進及び景観形成を目的とした栽培を行い、さらに産地づくり対策として将来は販売を目的とした麦・大豆を栽培する経営体を目標とする。

自作水田等において振興作物を栽培する経営体

利用権設定の目標は掲げないが、振興作物の発展的振興が図られるよう、栽培技術の向上を重点的に指導し、経営体の規模拡大と振興作物に取り組む経営体の掘り起こしに努める。

3 地域水田農業ビジョン実現のための手段

(1) 産地づくり交付金の活用方法

基本的な考え方

本市における水田農業は販売用の米は僅かしかなく、自家用米が中心で今後も販売用は減少傾向で、さらに生産者の高齢化、後継者不足から水田そのものが休耕から耕作放棄へと増え続けています。

今後も本市の水田農業は、引き続き自家用米中心として水稻不作付けの水田については、担い手の育成により景観形成作物に重きを置いた水田農業をめざすものとする。

また、これからの生産調整は目標面積を定めないことから、これまでの転作における自己保全管理や調整水田を対象としないで、景観形成作物及び販売用の麦・大豆を対象として産地づくり交付金の助成をしていくものとする。

産地づくり交付金の助成対象となるのは、販売を目的とした麦・大豆及び景観形成作物による生産調整に加え集荷円滑化対策の加入が必要となる。

「産地づくり交付金」

基本額

(単位：円/10a)

区 分	交 付 単 価
キカラシ・アンジェリア・コスモス・レンゲ等の景観形成作物	10,000
販売用の麦・大豆	10,000

加算額

1 ha 以上の産地づくり対策を実施した場合は、次の金額を上記基本額に加算する。

10a 当り 20,000 円

ただし、水田農業構造改革交付金（産地づくり対策）の地域特別交付額の範囲内で支払うものとする。